



学校だより

ゆめは大きく

尾張旭市西の野町5丁目1番地 <https://www.owariasahi.ed.jp/asahi-e/>

尾張旭市立
旭小学校
第3号
令和8年
5月25日

TEL 0561-53-2035

足元の「1つ」から、豊かな心を磨く

雨の多い季節となりました。校内では傘や上着、水筒など、子どもたちの持ち物が増える時期です。そして、落とし物も増える傾向にあります。

先日、門で朝の挨拶をしていると「鉛筆を拾いました!」と持ってきてくれた子がいました。その姿から物を大切にする気持ちを感じ、うれしくなりました。

一方、「自分のものじゃないから…」といって、見て見ぬふりをする子もいます。その姿からは、「落ちている物を大切に扱う」というよりも、「自分の物でなければ関係ない」という空気を感じます。

学校では毎日のように落とし物が届きます。名前のない消しゴム、上着、帽子、ハンカチ…。持ち主が見つからないまま残ってしまう物も少なくありません。もしかしたら、落とした子は、「なくしても、また買ってもらえればいいや」と考えているのではないかと心配になります。

大量消費の時代、物は簡単に手に入るかもしれません。しかし、1本の鉛筆ができるまでには、多くの人の知恵と苦労が詰まっています。また、1つ1つの持ち物は、家の方が働いて得たお金で購入したものです。そして、その背景には、「気持ちよく学校生活を送ってほしい」という願いがあります。物は、ただの“物”ではありません。そこには、家族の思いや支えが込められています。

自分を支えてくれる「道具」に感謝する心もまた、大切な教育です。物を粗末に扱うことは、それを買って与えてくれた人の想いや、その道具を使って努力してきた「自分自身の時間」を軽んじることにもつながってしまうのではないのでしょうか。

ものを大切にできる子は、人も大切にできる子に育つと言われます。例えば、自分の持ち物に名前を書く、使った後はきちんと片付ける、トイレのスリッパを整頓する、落とし物を見つけたら届ける。こうした小さな行動が、心を育てていくと考えます。

ぜひご家庭でも、「今使っている物を最後まで大切に使えているかな」、「なくした時、どんな気持ちだったかな」、「おとしものコーナーも見ただかな」などの声掛けをしていただき、「物を大切にすること」について考える機会としていただければ幸いです。



職員室前の落とし物コーナーでは、「物」たちが持ち主を待っています。

校長 岩下 徹